

金沢の女子教育



— ウィン、ヘッセル、加藤せむ —

—開催期間—

平成18年4月20日(木)～7月20日(木)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

—記念講演会—

平成18年5月13日(土) 午後1時30分～

「北陸学院を創った婦人宣教師」

講師:梅染 信夫氏(北陸学院短期大学非常勤講師)

平成18年5月14日(日) 午後1時30分～

「加藤せむの思い出」

講師:加藤 晃氏(金城学園理事長)

「加藤せむ先生に学ぶ」

講師:土屋 久美氏(昭和21年卒業 金城楼)

—入館料—

一般 300円

65才以上 200円

高校生以下 無料

金沢市立 ふるさと偉人館

Great People of Kanazawa Memorial Museum

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁18番地4

TEL (076) 220-2474 FAX (076) 220-2197

<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/bunho/ijin/>

金沢の女子教育

— ウィン、ヘッセル、加藤せむ —

明治18年(1885)、生徒数23名で私立「金沢女学校」(現、北陸学院)が開校しました。当時の女子教育機関は女子師範学校(教員養成が目的)が唯一のものであり、「金沢女学校」は一般女子教育を目的としてつくられた最初の学校でした。

一般女子教育を目的とした女学校は、その後、明治30年に県立「金沢第一高等女学校」、次いで明治38年に生徒数65名の私立「金城女学校」(現、遊学館高等学校)が新たに開校し、金沢の地に女子教育が根付いていくこととなります。

「金沢の女子教育」展では、私立女学校の設立に尽力したイライザ・ウィン、メリー・ヘッセル、加藤せむの3人に光をあて、明治・大正の金沢の女子教育について振り返ります。



金沢女学校時代の教卓



「旧新約全書」
ヘッセルによる傍線あり



加藤せむが使用していた座卓



金城高等女学校の設置申請書

イライザ・ウィン (1853~1912)

金沢女学校(現、北陸学院)を発想。夫であるトマス・ウィンと共に宣教師として金沢に来る。一般女子教育の必要性を考え、メリー・ヘッセルと共に金沢女学校の設立に尽力する。



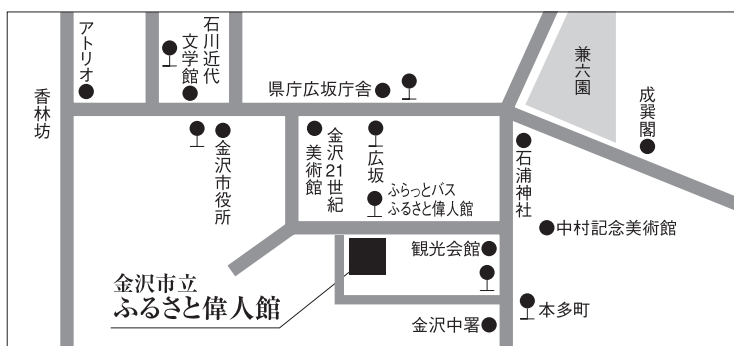
メリー・ヘッセル (1853~1894)

金沢女学校(現、北陸学院)の創業者。ウィン夫妻の協力を得て、金沢で最初の一般女子教育を目的とする金沢女学校を設立する。「アホバを畏るることは智慧の根本なり」を学校標語とする。



加藤 せむ (1869~1956)

金城女学校(現、遊学館高等学校)の創設者。夫である加藤広吉と共に、いつか女子の中等教育機関をつくらうという夢を育て、明治38年、金城女学校を設立。開校の翌年、病で夫を亡くすが、夫・広吉の意志を継いで学校の発展に尽くす。「教育とは 云うてきかすことではない。して見せることでもない。していることである」(金城学園の教育理念)



交通案内

北鉄バス
ふらっとバス(菊川ルート)

本多町下車 徒歩2分
ふるさと偉人館下車

金沢市立 ふるさと偉人館
Great People of Kanazawa Memorial Museum

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁18番地4
TEL (076) 220-2474 FAX (076) 220-2197

<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/bunho/ijin/>